

夢育て・たちかわ子ども 21 プラン推進会議 議事要旨

会議名	夢育て・たちかわ子ども 21 プラン推進会議（第 10 回）
日時	令和元年 5 月 29 日（水）18 時 30 分～20 時 30 分
出席	藤本知香、秋元洋子、井村良英、唐亀康司、小畑くるみ、進藤祐貴子、安部芳絵、米原立将、石井直行、坂下香澄、佐藤米子、山中ゆう子、小川素直、田中美保、齋藤陽璃、松本零 [事務局]横塚子ども家庭部長、伊藤子育て推進課長、石井、海野 [株式会社地域計画連合]相羽主任研究員、柳坪主任研究員
欠席	田中史子、畔田世紀子、井土満、宮田章子、市村仁、栗原一雄、高原麻子、進藤真莉恵、飯田飛鳥、上原明日香、丹野日和
配布資料	資料 1 今後のスケジュール 資料 2 集計結果の追加資料
会議場所	立川市役所 2 階 208・209 会議室

1. 委員の任命について

2. 今後のスケジュール

- ・資料 1 に基づき説明：第 11 回 7 月 10 日、第 12 回 9 月 4 日。
- ・委員の改選に伴い、10 月 23 日が第 3 期の第 1 回目として位置づけられ、続いて令和 2 年 4 月にかけて、第 2 回から第 6 回までを予定している。

3. 市民意向調査の報告について（前回の質問等）

- ・事務局より、前回報告時に出された質問への回答、対応について説明。

4. 第 3 次夢育て・たちかわ子ども 21 プラン 現計画の総括と市民意向調査の検証（前回の続き）

- ・各グループで検討した結果は以下の通りである（順番は発表に基づく）：

< 3 班・・・施策目標 3 「ひとりひとりに応じた学びを支援します」、施策目標 5 「配慮を必要とする子どもや家庭を支援します」を担当 >

- ・地域とのつながりを深めるために、子ども食堂への補助を充実させたらいいのではないか。また、子ども食堂のやり方として、持ち寄り式の子ども食堂もいいのではないか。
- ・発達支援について療育施設がない。例えば、日野にはエールという施設があって、OT（作業療法士）や ST（言語聴覚士）をおいている。立川市にも療育施設があればと思う。
- ・最近増えつつある外国籍の子に対するケアの充実。他市だと、例えば卒業生の保護者がボランティアでやってくださっているとか、そういうサポートの方法もあるそうなので、検討していきたい。
- ・児童館に入るのに対してカードがないと入れない、カードをなくしてほしいという自由意見については、児童館によって異なるのかという意見があった。
- ・親が離婚して、祖父母に任せたきりのケースで、例えば子ども食堂などつながって、少しでもケアができればよい。

< 2班・・・施策目標2「ひとりひとりに応じた<子育て>を支援します」、施策目標4「ひとつひとつの家庭に応じた<子育て>を支援します」を担当>

- ・子どもの居場所については、立川市内でも地域の差がすごくあるということがこの自由意見の中でもわかる。例えば、青少健だと12地区だが、児童館は8館しかない。
- ・子育てひろばとか、たまがわ・みらいパークだとか、プログラムなどが決められたところではなく、みんな自分が好きな時に自由に入ったりできる場所、そういった場所が近くにあるとよい。自由意見では、室内で遊べる場所が欲しいという意見が多いという印象を受けた。なお、たまがわ・みらいパークは、可能な範囲で開放している。
- ・夕焼けチャイムが鳴る時間については、本当に夕焼けになる時間に鳴らしてほしいという自由意見があった。
- ・ボール遊びを禁止している公園が多いが、大人がルールをしっかりと理解した上で、子どもたちにも説明する必要がある。
- ・地域における安心な場所ということで、今度、子ども110番のステッカーが変わるとのこと。周知が必要。
- ・ファミリーサポートの活動件数が減ってきているが、小さい子どもたちにとっては大事な場所であるため、もう少し見ていく必要がある。

< 1班・・・施策目標1「子どもの権利を尊重します」、施策目標6「地域のあらゆる構成員が連携・協力して事業を推進します」を担当>

- ・夢たちのブックの中でも、障害のある児童についての内容が反映されていない。障害に対しての否定的なイメージがどうしてもあることから、支援を拒む保護者もいる。
- ・子どもの権利については、アンケートを行ったことで、普及啓発につながった部分もある。ただし、認知度がなかなか上がっていかないという点で、もう少し違う伝え方が必要ではないか。「権利」という言葉も、「義務」との関係などから受け入れにくいこともあるため、周知には工夫が必要。子ども自身にも分かりやすいキーワードや、関心を持てる言葉に置き換えるというのは意味があることではないか。
- ・放課後子ども教室なども、地域差があるため、学校教育にどのように地域の方が入っていくか、コミュニティスクールをどうやっていくかを今後考えていく必要がある。
- ・協働については、言葉がまだ浸透していないのか、実際にやっていることはあると思うが、(アンケートの)自由記述から読み取れる部分が限られている。もう少し書きやすい設問があれば意見がでてきたかもしれない。

【その他（各グループ報告を受けて）】

- ・引きこもりの事情はそれぞれ違うとは思いますが、引きこもりになった時に、親の支援につなげられるものがあるとありがたい。
→施策目標5「途切れのない成長支援」に「困難を抱えた若者の自立を支援します」という取組みがあり、具体的な項目として「子ども・若者自立支援ネットワーク事業」を行っている。中学校を卒業後の選択肢を情報保障しようという趣旨で、関係機関や団体が連携して取り組んでいる。
- ・若者支援については、一つひとつの事業では多分カバーしきれないものがあって、何らかの所管部署を作るとか、もう少し大きな制度を考える必要があるかもしれない。

- ・給食については、子どもの権利の「育つ権利」として、食育という面で考えていかなければいけない。
- ・ウドラ夢たち基金で参加する権利を実現する機会を設けているが、例えば何らかの形で子どもから学校現場への意見を出せるところがあったらいいのではないかな。

5. その他

- ・次回の会場は女性総合センター 5 階、開始は 18 時 30 分。
- ・たまがわ・みらいパーク企画運営委員会：春休みのたまみら子ども食堂の報告。3 月 26 日から 4 月 3 日。土日を除く 7 日間実施し、子どもは 104 名、大人は 91 名で、合計 295 名が参加。6 月 17 日～21 日まで、たまみらキャラバン隊として、市役所 1 階の多目的ホールで展示を行う予定。今回のテーマは多摩川と緑。
- ・チャイルドライン立川：8 月 22 日から 9 月 4 日までの全国のキャンペーンにあわせ、7 月の終わりにカードが配れるように準備をしている。また、7 月 15 日にチャイルドライン立川が 15 周年を迎えることから、今の社会におけるチャイルドラインの役割や、子どもの実態などに関する講演会を企画中。
- ・ウドラ夢たち基金の C³ for Children's Rights：10 月の全国自治体シンポジウムに向けて、子どもの権利を啓発するクリアフォルダを作成中。

以上